

吉代志 松治

没十年回顧展

Kiyoshi Matsuji



2026.1.30fri — 2.15Sun

午前10時～午後5時|休館日 3日❶10日❷|ミュージアム飛騨2階 入場無料

飛騨・世界生活文化センター [高山市千島町900-1] 入場無料

TEL 0577-37-6111

主催 飛騨・世界生活文化センター 指定管理者 飛騨コンソーシアム

共催 一般財団法人 飛騨高山大学連携センター

後援 高山市・高山市教育委員会・

一般社団法人高山市文化協会・高山市美術展覧会運営委員会

木
氣
に
魅
せ
ら
れ
て。
。



つきまとう具象の影から
自由になって、
もつともつと純粹になりたい。



木を素材にしながら、不定形なイメージの向こう側を見据え、
そのイメージを掴もうと探求してきた、
彫刻家 喜代志松治(1929年–2016年)の作品を展示します。

花鳥風月という言葉から派生する伝統的な世界とは根底から位相を異にした、
喜代志さんの自然との親和は、ユーモアとペーソスに富み、
動きのある大きな作品からや小さな作品まで、
少年のような好奇心があふれています。



少しとぼけた表情も、なだらかな丸みを帯びたラインの
なんともいえない作品たちを眺めていると、大人だけでなく子どもだって
楽しくなってしまいます。



昆柱(1966 第51回二科展特選) 斐太の土俗(1991 第76回二科展) 密なる関係(1988 第73回二科展) 珠の人(1989 第74回二科展) 師画螺見(1986 第71回二科展)

喜代志松治という飛驒の彫刻家

岐阜大学教育学部教授 河西 栄二

喜代志松治は、1929年に高山市片原町の江戸時代から続く漆塗りの印籠屋に生まれる。若くして父親が病気で他界し家を継ぐことになり、印籠産業が時代の変化と共に衰退する中、自由な造形への憧れを持ち、独自の木製作品作りに取り組む。

岐阜県美術展覧会に工芸部門で初めて出品した際に、彫刻家の野水 信(のみず しん 石川県金沢市 1914-1984)に評価され次の言葉をかけられる。

「君、これは工芸ではなく彫刻だよ。彫刻部門に出品しなさい」。さらに二科展への出品を勧められ、東京で本展が開催される格式高い公募展である二科展への出品を志す。1956年、二科展彫刻部門に初入選(以後連続入選)1966年には特選受賞、1970年会友推挙、1982年会友賞を受賞する。晩年2009年に二科会を退会した。

1964年から公共施設の彫刻作品を多数制作・設置する。はじめの数年は陶板を組み合わせた陶壁であったが、1968年からは主にケヤキの木片を構成した、木彫レリーフ(壁)の技法による独自性の高い優れた作品を作り続ける。また名古屋芸術短期大学非常勤講師や名古屋の美術講座講師、岐阜県展彫刻部門審査員、高山市美術展運営委員を務める。2009年に岐阜県芸術文化顕彰、2011年には高山市芸術文化顕彰を受章する。個展は、1980年の名古屋市ギャラリーSEKIや2009年の高山市遊朴館等、名古屋や高山市で複数回開催した。2016年5月20日病気のため、高山市にて没。

壁彫作品



※壁彫作品はパネル展示となります

ボクは飛驒の

常識や慣習にとらわれることなく、
柔軟にフォームを変えながら
喜代志さんの彫刻はどんどん素直になりました。

ピカン。